

セカンドライフの就労モデル開発研究

プロジェクト期間内の成果概要

【現状・課題】

地域における**人と人のつながりの希薄さ**（例.社会的孤立）

⇒まだまだ元気で有能な高齢者が地域に帰っても活躍する場がない

【研究開発目標】

「全くのゼロから地域に**“生きがい就労”**を創出する」

⇒ 高齢者の活躍場所の創造

⇒ 個人のセカンドライフの問題と地域の高齢化に伴う問題の同時解決へ

- ① 「生きがい就労」事業モデルの創出(就労の場(下右図)／就労の仕方)
- ② 「生きがい就労」が就労シニアにもたらす効果の検証
- ③ 他地域展開のための「高齢者就労マニュアル」の作成

【対象コミュニティ】 千葉県柏市豊四季台地域(団地)

【主要な関与者】 柏市行政、東京大学、UR都市機構、地区住民

→自治体の積極的な関与を背景に、円滑に協働した産学官民連携

【開発した社会技術、成果(PJ実施期間中)】

- ・事業者の開拓と雇用実現(4領域6事業の開拓、および174名の生きがい就労実現)
→セカンドライフ支援組織のノウハウ
- ・新しい就労スタイルの構築(ワークシェアリング、高齢者に相応しい役割マッチング等)
- ・一般社団法人セカンドライフファクトリーの立ち上げ
- ・高齢者就労マニュアルの作成

★「生きがい就労」の特徴★



成果①「生きがい就労」開発実績～事業者の開拓と雇用実現

4領域6事業を開拓。のべ174名の生きがい就労者の雇用を実現！

(農上農園と食事業は事業構想を策定。2014年度事業開始予定) ※2013年3月末実績



RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」領域セカンドライフの就労モデル開発研究PJ

高齢者就労マニュアル

2013年10月



“ゼロから事業が創出できる”マニュアル



活躍するシニア

研究代表者: 辻 哲夫
東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授



プロジェクト終了後の展開と今後の展望

(プロジェクト終了時点の残された課題)

お問い合わせ先
東京大学高齢社会総合研究機構
就労研究チーム(担当: 前田展弘)
maeda@iog.u-tokyo.ac.jp

- (課題1) 生きがい就労事業を推進する機能の継承／地域実装化
- (課題2) 高齢者の多様なセカンドライフニーズに応える支援機能の拡張

生きがい就労事業を踏襲しながら、
新たに2つの取り組みを展開

解決策1

解決策2

生きがい就労システムの社会実装
—シルバー人材センターへの
生きがい就労機能の継承—
(JST/RISTEX研究開発成果実装支援プログラム
H24年度採択事業:H24~27)

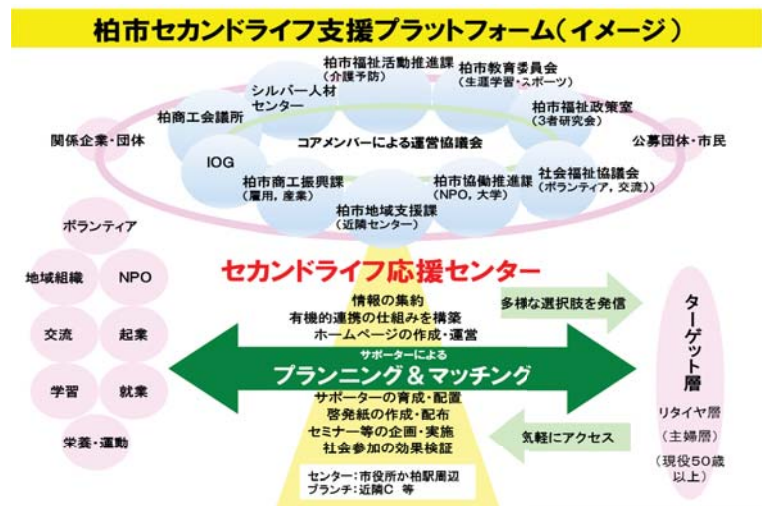
セカンドライフ支援プラットフォーム創造
—多様なセカンドライフニーズに応える
新たな仕組みの開発と実装—
(厚生労働省「地域人づくり事業」(H25-27)他)

- (概要)
- 東京大学他が未来永劫、生きがい就労事業を推進していくことはできない。そこで同じ目的・理念を有する「シルバー人材センター(SC)」へ当該機能を継承
 - 生きがい就労事業のキーパーソンであるジョブコーディネーター(JC)を配置し、「活躍の場の開拓力」、「きめ細かなコーディネート力」等の機能を移管
 - 柏市SCで実装可能性を検証した後、他地域SCでの実装をはかる

- (概要)
- 高齢者の「就労」に限らない多様な活躍ニーズ(ボランティア、生涯学習、地域活動等)を一元的に受け止め、活躍場所へナビゲートする新たな仕組みの開発
 - 高齢者の就労と社会参加の場・機会を提供する関係組織・団体のネットワーク化、活躍場所等の情報の把握と相互共有をはかり体制・環境を整備
 - 生きがい就労事業から自立した一般社団法人セカンドライフファクトリー(柏市住民)が柏市からの委託を受けて運営



- (これまでの実績・成果)
- ✓ JC2名を柏市SCへ配置。SCの活動を把握しながら、生きがい就労の優位性・新規性を検証
 - ✓ 活躍可能な新規事業所等を積極的に開拓
 - ✓ 右記のプラットフォーム事業とも有機的に連携
- (今後の展望／最終GOAL)



- (これまでの実績・成果)
- ✓ セカンドライフネットワーク会議を設立・運営
 - ✓ 柏市役所内に相談窓口を設置
 - ✓ セカンドライフ応援サイト(HP)を立ち上げ
 - ✓ H26.11より活躍支援(マッチング)を開始

シルバー人材センターとセカンドライフ支援プラットフォームの機能を整理・融合し
年齢に関わらずニーズに応じた活躍を可能とする“真の生涯現役社会”を創造する